

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 金曜日・2校時	必修選択 必修	単位数 2単位
授業科目/(英語名)	教養特別講義 / (Colloquium)		
対象年次 1年次	講義形態 講義・講演	教室 201・中部講堂	
対象学生(クラス等) M15 T21A	科目分類 共通基礎科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 山口恭弘/Eメールアドレス: ayutrap@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 水産学部/TEL: 819-2808 /オフィスアワー: 12:00-13:00, V時間目 石松隆和/Eメールアドレス: ishi@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 工学部/TEL: 819-2508 /オフィスアワー: 月3校時 戸田 清/Eメールアドレス: toda@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 環境科学部/TEL: 819-2726 /オフィスアワー: 月曜5校時 姫野順一/Eメールアドレス: himeno@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 環境科学部 3F/TEL: 819-2722/オフィスアワー: 金曜日 16:00 ~17:00			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: ものの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知るとともに、学生生活の拠点となる長崎についての多様な視点からの諸特徴について理解を深めることによって学生諸君が探求心と豊かな心を持ち、平和を支え、社会に貢献する人材となることを期待する。 授業方法 : 特別講演形式と講義形式の両建てにより行い、特別講演は学長、理事、名誉教授などが担当する。講義は、「長崎」3回、「安全・安心」2回、「平和」3回、「海洋と文化」3回を講義する。 授業到達目標: 特別講演により、長崎大学の理念に触れ、もの見方・考え方の多様性、課題探求・学問の面白さを知る。講義により、学生生活の場である長崎の歴史、文化、自然を理解し、長崎大学に学ぶ学生としての自覚を促し、世界を理解する。身近に起こりうる災害や対処法等について学び、安全で安心できる地域社会の大切さを理解する。被爆地長崎を通して平和について学び、平和を愛する豊かな人間性を育む。地球上全ての生命の維持に不可欠な海洋について学ぶ。さらに、古来より、大陸文化の伝来・発展・交流の街道の最前線であった長崎を理解する。アジアとの関係を含め、長崎の歴史、文化、平和について知識を広め互いにそれぞれの分野について議論できるようになる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 海洋と文化: 第1回 進化の過程からみた海洋とヒトの誕生と文化の黎明。 第2回 ヒトの特徴から漁業技術への発展段階。 第3回 長崎の海洋ならびに漁業の特徴。 毎回の講義で「受講シート: 講義のまとめ、質問・要望、感想の記載」を配付し双方向的講義を行う。また受講シートの記載内容は各出席回ごとの受講態度として点数化して評価の一部(配点: 受講シート 30%、レポート 70%)とする。 安全・安心: 長崎に暮らす高齢者や障害者の生活の現状を眺め、安全安心のためになにが必要かについて述べる。 平和: 第1回: 核時代を考える 第2回: 戦争と資源・環境問題 第3回: 直接的暴力・構造的暴力・文化的暴力 長崎: 第1回: 写真術の伝播: 出島における化学と文化の融合 第2回: 写真師の誕生: 上野彦馬と外国人写真家達 第3回: 幕末長崎の曼荼羅: 甦る江戸時代 第1回 4月10日 特別講演Ⅰ 片峰 茂 (学 長) 第2回 4月17日 海洋と文化 山口恭弘 (水産学部) 第3回 4月24日 海洋と文化 山口恭弘 (水産学部) 第4回 5月 1日 海洋と文化 山口恭弘 (水産学部) 第5回 5月 8日 安全・安心 石松隆和 (工学部) 第6回 5月15日 安全・安心 石松隆和 (工学部) 第7回 5月22日 平 和 戸田 清 (環境科学部) 第8回 5月29日 平 和 戸田 清 (環境科学部) 第9回 6月 5日 平 和 戸田 清 (環境科学部) 第10回 6月12日 特別講演Ⅱ 水田善次郎(名誉教授) 第11回 6月19日 特別講演Ⅲ 小山 純(名誉教授) 第12回 6月26日 長 崎 姫野順一 (環境科学部)			

第13回 7月 3日 長 崎 姫野順一（環境科学部） 第14回 7月10日 長 崎 姫野順一（環境科学部） 第15回 7月17日 特別講演Ⅳ 橋本健夫（教学担当理事）	
キーワード	ヒューマン・エラー，事故と被害，高齢者、地域、福祉、共生，古写真、写真術、化学、幕末、上野彦馬
教科書・教材・参考書	海洋と文化：魚食文化：肉食文化と魚食文化（長崎福三、人間選書 183、農文協） 現代魚食考（成瀬宇平、丸善ライブラリー109） 漁具漁法：日本の漁業と漁法（金田禎之、成山堂） 安全・安心：印刷物を配布する。 平和：教科書は指定しない。映像を用い、プリントを配布する。参考書は適宜紹介する。 長崎：参考書：姫野順一編『出島と西南雄藩』九州大学出版会 教材：長崎大学附属図書館『明治7年の長崎・熊本・鹿児島』長崎文献社
成績評価の方法・基準等	長崎24点、安全・安心16点、平和24点、海洋と文化24点、特別講演12点の配点とする。 長崎：レポートによる評価。 安全・安心：レポートによる評価 平和：出席状況とレポートによる総合評価。 海洋と文化：レポート
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ / 学習・教育目標	海洋と文化：漁業という海洋から生まれた文化についてヒトと道具との関わりの原点を学び体系的に説明できるようになる。
備考(準備学習等)	海洋と文化：どのような形でもよいので「海」、「海岸」、「釣」、「漁業」などに触れておくことが望ましい。